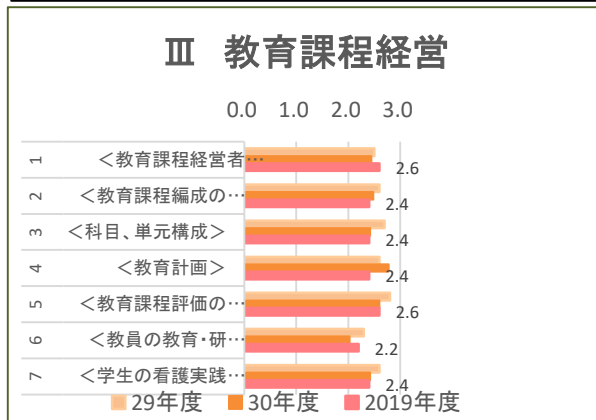


平成29・30・2019年度 自己点検自己評価結果 看護科
 <評価基準> 3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

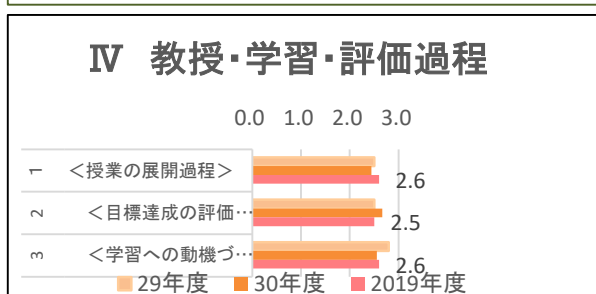
	29年度	30年度	2019年度
III 教育課程経営	2.6	2.5	2.4
IV 教授・学習・評価過程	2.6	2.6	2.6
V 経営・管理過程	2.6	2.5	2.5
VI 入学	2.5	2.4	2.4
VII 卒業・就業・進学	2.0	1.9	1.9
VIII 地域社会／国際交流	2.2	2.1	2.1
IX 研究	2.1	1.6	1.9



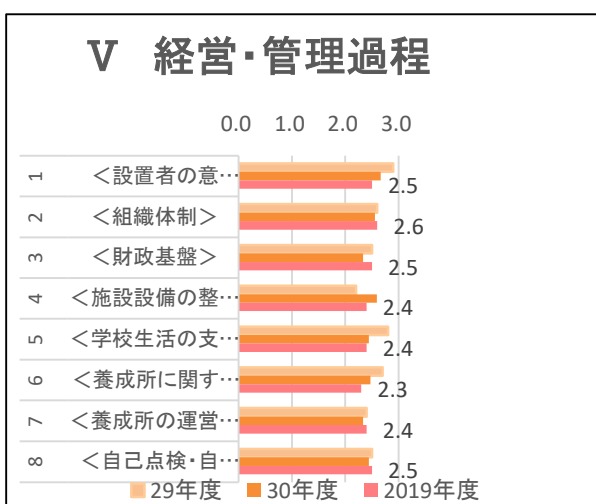
III 教育課程経営		29年度	30年度	2019年度
1	<教育課程経営者の活動>	2.5	2.4	2.6
2	<教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	2.6	2.5	2.4
3	<科目、単元構成>	2.7	2.4	2.4
4	<教育計画>	2.6	2.8	2.4
5	<教育課程評価の体系>	2.8	2.6	2.6
6	<教員の教育・研究活動の充実>	2.3	2.0	2.2
7	<学生の看護実践体験の保障>	2.6	2.4	2.4
平均		2.6	2.5	2.4



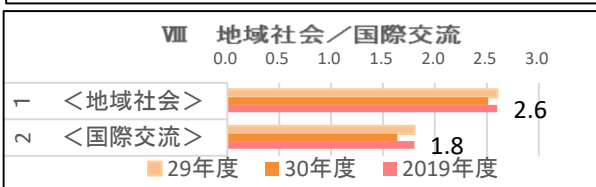
IV 教授・学習・評価過程		29年度	30年度	2019年度
1	<授業の展開過程>	2.5	2.4	2.6
2	<目標達成の評価とフィードバック>	2.5	2.7	2.5
3	<学習への動機づけと支援>	2.8	2.6	2.6
平均		2.6	2.6	2.6



V 経営・管理過程		29年度	30年度	2019年度
1	<設置者の意思・指針>	2.9	2.7	2.5
2	<組織体制>	2.6	2.6	2.6
3	<財政基盤>	2.5	2.3	2.5
4	<施設設備の整備>	2.2	2.6	2.4
5	<学校生活の支援>	2.8	2.4	2.4
6	<養成所に関する情報提供>	2.7	2.5	2.3
7	<養成所の運営計画と将来構想>	2.4	2.3	2.4
8	<自己点検・自己評価体制>	2.5	2.4	2.5
平均		2.6	2.5	2.5



VIII 地域社会／国際交流		29年度	30年度	2019年度
1	<地域社会>	2.6	2.5	2.6
2	<国際交流>	1.8	1.6	1.8
平均		2.2	2.1	2.2



2019 年度 重点課題に対する評価 看護科

1. 第 109 回看護師国家試験全員合格を目指す。

昨年に引き続き、3 年連続 100%を達成できた。対策として、業者模試を 10 回実施した。また、業者による特別講義を 4 月と 7 月に実施し、学生のやる気を刺激した。更に、業者による対策強化ゼミを全員に臨ませた。全員合格に導くため従来から取り組んでいる、成績低迷者を対象とした学外講師と学内教員による補習講義を 1 月から 60 時間行った結果、教員の 4 段階評価は 4.0 であった。しかし、卒業時の学生のアンケート調査では「国家試験対策（模擬試験・特別講義・補習講義）に満足しているか」の問いに対しては、高い評価は得られていない。その要因として、国家試験の内容も年々難しくなっており、分析と対策が必要で、全員を対象に専門業者による対策の導入をしていることや学内外の補習講義の受講者を成績低迷者に限定していることが考えられる。引き続き次年度も全員合格を目指し、国試対策を強化していく。

2. 専門的な知識・技術を向上させ、社会が求めている人材教育（社会人基礎力の育成）に努める。

- ① 授業時間内における技術力強化
- ② 学んだ知識や技術を実際に活かせる能力の強化

本校は専門的な知識・技術の習得として、基礎看護学方法論Ⅱ 2 単位 60 時間の中で、技術力強化を目標に取り組んでいる。今年度から共同学習を取り入れ、学生同士で教え学び合う方法に変更した。その方法を通して社会人基礎力である、前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）などの育成を図っている。1 年次終了時と卒業時の学生のアンケート結果では、「専門的な知識が身についた」と答えた学生は、82%で、「専門的な技術が身についた」と答えた学生は 78%と高い評価が得られている。しかし、教員の 4 段階評価は 2.9 であった。

3. カリキュラム改正に向けて、現行のカリキュラムを見直し、より良い教育を目指す。

- ① 月 1 回の検討会による現行カリキュラムの見直し
- ② 学校関係者評価の導入

2023 年度のカリキュラム改正に向けて、月 1 回の検討会による現行カリキュラムの見直しを行うことを目標にあげていたが、講義・実習・会議等で時間の捻出が難しく実施できなかった。そのため、教員の 4 段階評価は 2.1 と低値だった。カリ

キュラム改正に向けて 2020 年度も引き続き目標に挙げ、取り組んでいきたい。

学校関係者評価の導入においては、第 1 回の学校関係者評価委員会を 7 月に実施し、学校関係者による外部の意見を聞くことができ、よりよい学校運営に繋げる機会を得た。

4. 本校で学んだことに誇りを持たせ、満足できるような教育を行うことで、学生確保に努める。

- ① オープンキャンパス・学校訪問での宣伝強化による応募者数の増加
- ② 在校生が本校を選んだことを肯定的に捉えられる

「オープンキャンパス」を准看護科と看護科合同で 3 回行ったが、前年度より参加者数と受験者数が大幅に減少し、入学者数を満たさなかった。その背景に、准看護師養成校の定員充足率が低いことと、通信課程の入学年限の短縮化により勤労学生の増加が大きな要因ではないかと考えられる。また、学生のカリキュラム評価の結果では「本校で学んだことに満足」と答えた 1 年生は 83%、2 年生は 56%であった。学生確保には在校生からの宣伝効果はかなり大きく、在校生自身が本校を選んだことを肯定的に捉える必要がある。そのためには、更なる学生の満足度を上げられるような教育を目指し、学生確保に努めていく必要がある。

2020 年度 看護科 重点課題

1. 学生の満足度を高める教育を目指す。

- ①第 110 回看護師国家試験全員合格
- ②学生個々に応じた支援（個別面談・学習支援・実習支援・就職支援）

2. 専門的な知識・技術及び社会人基礎力の習得に向けた指導力の向上に

努める。

- ① 基礎看護学方法論Ⅱにおける技術習得を目指す
- ② 卒業時の到達目標の達成度を上げる

3. カリキュラム改正に向けた取り組みを行う。

- ① 月 1 回の検討会による現行カリキュラムの見直し
- ② 多職種連携教育・ICT 教育の導入に向けた準備

4. 受験者数の増加に向けた取り組みを行う。

- ① 総合型選抜（旧 AO 入試）の導入